

# 静岡県清水区におけるオオトノサマガセルの成長

早瀬善正・舟越善隆(㈱東海アクアノーツ)

## はじめに

国内の陸産貝類の研究は主に分類学を中心に行われており、成長や繁殖などについての生態学的な研究は、殆ど行われていないことから、陸産貝類の生態学的研究を行った。

調査地である静岡県静岡市清水区には、オオトノサマガセル *Mundiphaedusa rex* が高密度で生息する地域があることから、本種を研究対象種に選んだ。調査地は岩礫からなるガレ場の斜面で、落葉広葉樹と常緑樹および杉植林の混生林が覆う。面積は約150㎡(11m×14m)である。本研究では、2005年5月から2006年11月にかけての冬季を除く各月、基本的に降雨後2~3日以内に2人×1時間程度かけ、オオトノサマガセルを採取した。現地ですぐに殻高を計測した後、直ちにその個体を調査地内に戻した。なお、本種は環境省および静岡県レッドデータブックにおいてそれぞれ、準絶滅危惧(NT)および絶滅危惧Ⅱ類(EN)に位置付けられる種である。



調査地点の概略

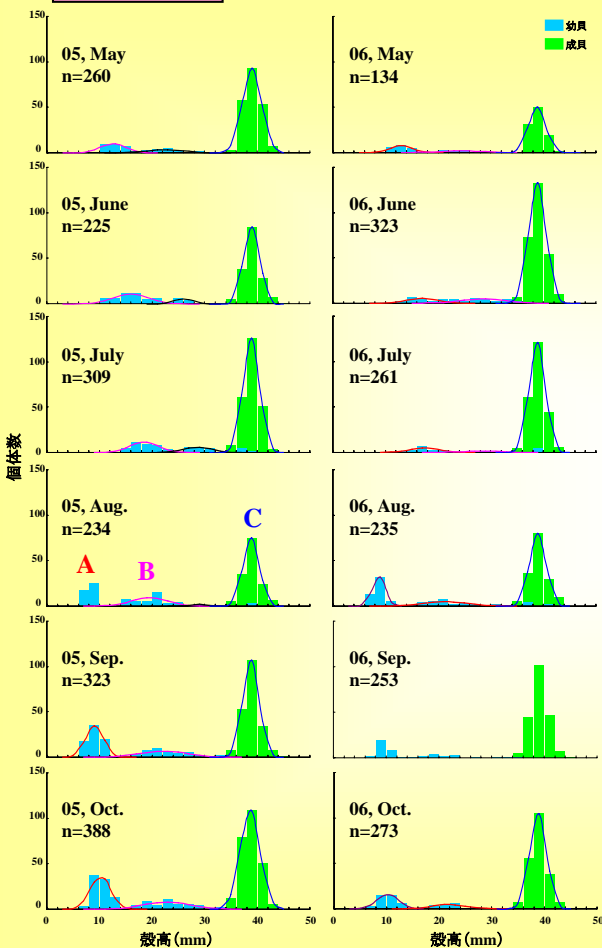


調査地点



オオトノサマガセル

## 成長と加入期



オオトノサマガセルの殻高組成



A群



B群



C群

2005年8月の新規加入群Aは翌年の2006年8月には20~22mmにモードを示し、2005年8月の18~20mmにモードをもつB群と同等のモードに達した。B群は2006年8月には38~40mmにモードをもつC群に包括される。したがって新規加入から成員に至るまでに野外では24ヶ月要すると考えられる。



卵



稚貝

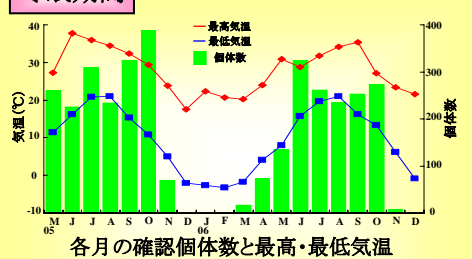
8月新規加入であることから、2006年7月8日に成員を採取し、短期間飼育したところ、7月22日に産卵(卵の長径は約5mm)を確認し、7月29日に孵化を確認した。



生殖器官系

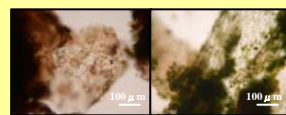
野外での産卵期を特定するため、2006年4~11月に採集した個体の生殖器官を解剖し確認した。6、7月に輸卵管内に3~4個の卵を保持しており、8月には生殖器官が萎縮したことから、7~8月中旬にかけて産卵を行う。

## 冬眠期間



11月から4月までが本種の冬眠期間と考えられ、その開始・終了の境界は最低気温5℃前後と推察される。

## 食性



消化管内容物

消化管内容物には植物細胞が確認でき、葉緑素を含むものもみられた。調査地では、生育する種子植物の葉を食べる個体はみられなかったため、腐植土や藻類を摂食すると考えられる。

## まとめ

- 新規加入は8月・成員までに24ヶ月要する
- 産卵は7~8月中旬
- 大卵少産型 (卵の長径約5mm・保有卵数3~4個/1個体)
- 冬眠期間は11~4月・境界は最低気温5℃前後
- 腐植土や藻類を摂食する